

甲斐市立双葉中学校 自己評価書

令和4年 1月 21日 (金) 作成

校長 「小林 大」 記述者 職名(教務主任)「荻野 秀紀」

学校教育目標 「主体的に学び、心身ともに健やかで、人間性豊かな生徒の育成」

学校経営方針

- ・全教職員で、生徒・保護者との信頼関係の下に、生徒や地域の実態を考慮して、活力に充ちた特色ある明るい学校づくりに努める。
- ・学校教育目標「主体的に学び、心身ともに健やかで、人間性豊かな生徒の育成」の具現化に向け、特色ある教育課程の編成と実施に努める。
- ・基礎的・基本的内容の指導の徹底と、定着を図る授業づくりを進める。
- ・知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育ていく。
- ・自らの個性・特性を理解し、主体的に進路選択ができる能力を育てる。また、発達段階に応じた体系的なキャリア教育の推進を図る。
- ・教育活動全体を通して、知・情・意・体の調和のとれた人間性を養い、道徳的実践力と思いやりの心を持った生徒の育成を目指す。
- ・健康安全に関する理解を深め、基本的生活習慣を身につけるとともに、文化・スポーツ等に親しみ、自ら心身の健康を高める生徒の育成に努める。
- ・職員の能力・特性を活かし、協働体制による活力ある学校運営を行う。

(1) 学ぶ力を育てる学習指導

- ①各教科等の目標・内容及び相互の関連を踏まえ、指導計画の改善と充実に努め、反復練習や自主学習の取組を通して基礎的・基本的内容の確実な定着を図る。
- ②話し合い活動や根拠・理由に基づいて自分の考えを発表したり、書いたりする活動を通して、言語活動の充実に努め、思考力・判断力・表現力の向上を図る。
- ③生徒一人一人の勤労観・職業観を育てることに加え、社会的・職業的自立のために必要な基礎的・汎用的能力の育成に努め、主体的計画的な進路選択が出来るように支援する。
- ④学習規律の確立とたゆみない授業改善に努め、確かな学力の定着と向上を図る。
- ⑤問題解決的な学習や啓発的体験活動の充実に努め、将来への夢や希望を抱かせ、自己の生き方を模索できる生徒を育てる。
- ⑥地域の人的・物的資源の活用、社会教育との連携などにより一層努めていく。
- ⑦環境教育をはじめ、福祉・国際理解・情報教育を教育活動の中に位置づけ、推進を図る。

(2) 豊かな心と望ましい人間関係の育成

- ①教育活動全体を通して、思いやりの心や命を大切にする教育の充実に努める。
- ②心の糧となる読書活動や文化芸術活動、地域文化にふれる機会を設ける。
- ③保護者、地域の協力を得て、福祉・ボランティア活動等の充実に努めるとともに、他人や仲間の心の痛みがわかり、ともに生きる心を育てる。
- ④地域行事に積極的に参加させ、地域の人々との望ましい人間関係の育成を図る。
- ⑤学校行事、生徒会活動、部活動、地域活動等を通して、異年齢集団活動を活用し、社会性や協調性等を育てる。

(3) 健康・安全教育の充実

- ①自他の生命を尊重する意識を高めるとともに、安全についての実践的な能力や態

度を育てる。

- ②望ましい生活習慣の確立を目指し、健康3原則(栄養、睡眠、運動)の徹底を図るとともに、食に関する指導の充実を図る。
- ③地域の活動に積極的に参加するとともに、自ら進んで体力の向上と健康の増進を図る態度を育てる。
- ④部活動等を通して心身を鍛えるとともに、最後までやりぬく粘り強い生徒を育てる。
- ⑤登下校の安全確保はもとより、防犯に関する指導の充実を図るとともに、地震・火災などの災害に対する防災教育の充実と、危機管理マニュアルの不断の更新により、安全な学校づくりに取り組む。

(4) 愛情と信頼、生徒理解に基づく生徒指導

- ①定期的なアンケート調査などを通し生徒個々の実態を把握し、個に応じた指導を組織的・継続的に行うと共に、保護者・関係機関との連携を図る。
- ②生徒が発する兆候を見逃さないよう、常日頃から情報交換を行い、問題の早期発見・早期対処に心がけ、問題発生時には的確な情報把握と組織的対応に努める。
- ③校外学習等の機会を生かし、集団生活や体験活動を通して規範意識の醸成を図る。
- ④生徒が所属感や充実感・成就感を味わえるような学校行事の工夫に努める。
- ⑤全教育活動を通じて生徒と教師、生徒同士の信頼に基づいた人間関係を築き、深める。

(5) 信頼される学校づくり

- ①PDCAサイクルを確立し、学校評価等の結果を生かした、教育活動の組織的・継続的な改善に努め、信頼される学校づくりを進める。
- ②学校評議員制度を活用し、学校経営の客観性向上を図る。
- ③家庭・地区小学校・地域・関係機関との密接な協力体制の確立と促進に努める。
- ④各種たより、ホームページを通して積極的な情報発信に努める。

1 全体評価

○今年度も昨年度に続き、AB双方を合わせると90%を超える肯定的評価の項目が多い。

・教師自己評価

「報告・連絡・相談」などの項目で高い数値がみられ、「チーム双葉中」としての教育活動への取り組みがみられた。今年度は、新学習指導要領の完全実施の年で、学習指導の学習評価や、協働的な学びの数値が低く、今後の双葉中学校の教育活動の課題になると思われる。また、ICTの活用でも数値に課題が残った。一方で、昨年度に引き続き、感染症の影響で、PTA活動への数値も双葉中の特色である「読書活動」や、「至誠の鐘」で数値の低下がみられた。

・生徒アンケート

全体としてAB評価が昨年並みに多く、概ね肯定的な回答である。「学校が楽しいですか」のA評価数値が高くなり、学校生活が充実している生徒が増えている。「学校のきまりや約束事が守れている」の数値が高く、また、清掃活動や委員会活動にも、かわらずしっかり取り組んでいると考えている。あいさつの数値も改善がみられ、双葉中学校の生徒の活動が十つしていることが表れている。

<p>・保護者アンケート 昨年度と比べて、横ばいの項目が多いが、家庭学習、あいさつの項目では数値に改善がみられた。感染症の影響で、PTAなどの項目は数値が低下している。</p>	
<p>2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）</p>	
<p>I 学校教育目標に関して・学校経営について</p>	
達成状況	<p>5項目中すべての項目で90%以上のAB評価である。学校の教育活動計画に基づき、実態に即した教育実践を行っている教師が増えてきた。A評価が全体的に下がっている。感染症の影響で、教育活動が流動的などところもあるのも原因の1つかと思われる。項目3、4以外においてはAB評価100%ということで、学校経営方針に基づき、教育活動が行われていると全職員が感じている。</p>
改善策	<p>①教育活動が変更、短縮など、感染症対策に迫られた1年であった。効率的な会議の運営や精選、簡素化、職員間の協力体制を見極めていく。早めの退勤、定時退勤日などの取り組みなどを継続していく。</p> <p>②学校教育目標の具現化に向けた協力体制に課題があると感じている職員もいるので、日々の教育活動を振り返って常に総括を行い、継続して「チーム双葉中」の意識を盤石にしていくために、PDCAサイクルがより緊密なものにして教職員間の情報共有、さまざまな問題や事象への共通認識が確立されるように連絡体制を整えていく。</p>
<p>II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）</p>	
達成状況	<p>8項目中6項目で90%以上のAB評価である。職務について職員一人ひとりが責任感を持って取り組んでいる。情報セキュリティ、職員の協働についてA評価が、昨年と比べて数値が上昇している。</p> <p>校務支援については昨年同様、低い数値であった。</p>
改善策	<p>①防災や防犯、情報セキュリティに対する管理等、危機管理が叫ばれている。本校でも、校務支援システム上でも、適切な情報管理が行えるように全職員の研鑽を積んでいきたい。</p> <p>②新項目の働き方改革にも力を入れる。早めの退勤、定時退勤日などの取り組みなどを継続していく。効率的な会議の運営や精選、簡素化などにも力を入れて、教育の質の向上を図る。</p>
<p>III 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）</p>	
達成状況	<p>7項目中5項目で90%以上のAB評価である。新学習指導要領が完全実施され、「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけて、課題を感じている教職員もいるようである。</p> <p>また、新しい観点の評価の数値は低かった。家庭学習に課題を感じている教職員もいるが、生徒や保護者のアンケートの数値は高かった。</p>
改善策	<p>①新指導要領の基礎・基本の定着や、評価方法について、課題を感じている教職員も多いが、学校体制で取り組んでいく。</p> <p>②ICTの利活用にも大きな課題がある。感染症の関係で、早期実施されたGIGAスクール構想であるが、職員のICTの研修を実施していく。</p>
<p>IV 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）</p>	

達成状況	6項目中5項目で90%以上のAB評価である。A評価の数値は下がっているがその分B評価の数値が上がっている。不登校や支援生徒への組織的問題解決の在り方については課題がみられる数値である。生徒アンケート、保護者アンケートともあいさつの数値に改善がみられた。
改善策	①生徒指導の未然防止や早期発見, 対応, また不登校, いじめ, 支援に関わる本校のシステムの見直しを一層進めていく。生徒の抱える課題に対して共通認識をもって, 組織的かつ迅速, 適切な対応ができるようにする。 ②アンテナを高くして情報収集に努めるとともに, 保護者や生徒が相談しやすい雰囲気を作っておく。家庭, 学校, 地域, 関係諸機関との連携を緊密にする。
V 地域との連携について	
達成状況	5項目中2項目で90%以上のAB評価である。コロナ禍の学校運営で, 学校に招く人材にも制限があり, 地域人材等の活用について昨年度よりも低下している。保護者アンケートでは, P T A活動が制限された関係で数値が低下している。
改善策	①来年度も地域人材の活用やP T A活動については制限がつくことが予想される。授業参観, 学校開放日, P T A行事の方法や日程, 内容の工夫を図り, より一層保護者や地域の要望に意を注ぎ, 情報収集に努めていく。 ②学校への理解を深めてもらうために, 学校HP, 各種通信等による情報発信を今後も進めていきたい。
VI 学校の特色に関して	
達成状況	4項目中すべての項目で90%以上のAB評価である。昨年から引き続き, 例年とは違う学校生活になった。その中で, 学校行事の中止, 縮小もあり, 数値が低下している。また, 読書活動も例年の数字より低下がみられた。
改善策	①来年度も本年同様, 「新しい生活様式」の学校運営が予想される。授業参観や学校開放日について, 保護者がより学校を深く知ることができるよう内容, 方法の調整を図っていく。 ②至誠の鐘, 朝読書といった本校の特色についてもう一度全職員で見直し, 来年度につなげる。読書の振興について, 朝読書や図書委員会の取り組みを工夫し, 読書時間が増やせるように啓発を行っていく。
VII 創甲斐教育について	
達成状況	新規の項目であり, 昨年との比較はできない。言語活動や, 話し合い活動ではAB評価で90%以上のAB評価である。
改善策	・新指導要領の「主体的・対話的で深い学び」の理念の軸になる言語活動や話し合い活動なので, 来年度以降も職員全体で取り組みを進めていきたい。

3 まとめ

<成果>

- ・コロナ禍の学校運営で色々な数値に変化がみられた。それぞれをしっかりと分析し、来年度の学校運営につなげたい。
- ・教職員の自己評価では肯定的評価が多くなっている。特に学校の教育活動計画や教育実践については安定した実践がみられた。全職員で「チーム双葉中」のもと、「報告、相談、連絡、確認」の体制を確立し、今後の教育活動にあたりたい。
- ・学校の情報発信には一定の成果がみられた。学校行事の変更が来年も予想されるので、継続して、学校メール、ホームページの更新に努めたい。
- ・保護者、生徒のアンケートでは「あいさつ」の項目で数値の改善がみられた。今後も地域と連携して、指導にあたいたい。
- ・生徒は学校の特色を理解しており、多くの活動に積極的に取り組んでいる状況がみられる。保護者も多く学校に理解を示している。

<課題>

- ・学校運営については引き続き、「チーム双葉中」のもと、教育活動にあたることをもう一度見直したい。報告・連絡・相談という流れを確立させて、PDCAサイクルで検証改善していきたい。
- ・来年度も学校行事の変更、PTA活動の制限が予想される。保護者が学校に来ることも制限されるが、積極的にホームページ、安心メールなどの情報発信に努め、保護者からの信頼を得ることにつなげていきたい。
- ・コロナ禍の学校運営で「新しい生活様式」の確立に努めたい。生徒、保護者からもよい評価が得られるように日常の感染対策の指導に努めていきたい。
- ・ICT（一人1台タブレット）が導入され、課題がみられた1年になった。来年度もなお一層の研修を実施して、全職員で研鑽を積んでいけるようにする。